

実施日： 9月27日（2・3時間目）	
領 域：総合的な学習の時間	
取組名：福祉体験	
対 象：4年生・保護者	実施場所：体育館、校舎周り、和室、4年生教室
ア ねらい 誰もが楽しく幸せに暮らせる町を創るために、体験活動を通し、介助する側や介助される側の立場に立って、それぞれの思いを共感的にとらえ、共に生きる社会の育成を目指そうとする態度の育成を目指す。また、福祉について自分なりに考えたことや自分が変わったことをまとめ、今後の生活に生かそうとする態度を養う。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <ul style="list-style-type: none"> 福祉体験学習の導入として、4年国語「だれもが関わり合えるように」の単元で、福祉について興味があることを調べ、まとめさせる。（9月） 事前に、5講座〔点字体験・車いす体験・フライングディスク体験・アイマスク体験・手話体験〕から2講座を選択させる。 初めに、全員が体育館に集まり、社会福祉協議会の方からのお話を聞く。 その後、各活動場所に移動し、保護者と一緒に体験をする。 感想や今後に生かしたいことを書き、発表させる。 	
ウ 連携先：家庭 社会福祉協議会 手をつなぐ育成会 西播磨総合リハビリテーションセンター	
エ 連携 <ul style="list-style-type: none"> 保護者が子どもと一緒に福祉体験を行うことで、家庭でも福祉のことを話すきっかけ作りとなるようにする。また、体験活動の様子を学校便りや学級通信を使って発信するとともに、人を思いやる優しい言葉がけや行いができるように温かく見守ってもらうことを呼びかける。 社会福祉協議会を中心に事前の打ち合わせを行い、効果的な体験活動の方法を話し合ったり車いすやアイマスク体験のルートなどを確認したりすることで安全面を配慮する。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> 車いすや手押し車を使う肢体不自由の児童がいるため、校舎内を走らず右側通行するように日常生活でも呼びかける。また、障がいのある人に対して、思いやりのある優しい言葉がけや行いができるように指導していく。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> 体験に取り組む態度 ワークシート、感想 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> 児童にとって、体験してみても初めて分かったことが多く、体験をすることの大切さを感じた。 親子で福祉体験することは、人権教育を家庭にも広げ、障がい者に対する理解を親子で共有することになり、意義ある活動になった。 手話に興味をもった親子が「家でもっと調べてみよう。」と話していた。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> 今回の活動で終わらせず、日常的に福祉についての関心が継続するようにする。 全部で5つの体験講座のうち2つを選択し体験させたが、できればどれも児童に体験させたい。 それぞれの講座に講師はおられるが、教師も内容を理解したり知識を習得したりしておく活動の幅が広がる。 本年度は日程の都合上「知的障がい者体験」を同日に行うことができなかった。別日に児童のみではあるが、体験教室を実施している。 	